2026年８月20日

各　位

会 社 名　株式会社ティアフォー
代表者名　代表取締役CEO　加藤　真平
（コード番号：593A　東証グロース市場）
問合せ先　取締役CFO　阪口　聡志
（TEL. 03-4520-2315）

# ルネサス エレクトロニクス株式会社との協業に関するお知らせ

当社は、ルネサス エレクトロニクス株式会社（以下「ルネサス」という）と協業し、ソフトウェア定義型車両（以下「SDV」という）向けのオープンかつAIネイティブなコンピューティングプラットフォームの構築を進めることといたしましたので、お知らせいたします。

本協業では、リファレンスAIモデルなどのティアフォーの自動運転ソフトウェア技術および自動運転用オープンソースソフトウェアの「Autoware」と、ルネサスの次世代車載システム・オン・チップ（System-on-chip：SoC）の「R-Car」を組み合わせることで、レベル２＋/２＋＋の先進運転支援からレベル４の自動運転までに対応した拡張性の高いソリューションを提供します。

記

１．協業の背景

自動車業界では、車両の性能はハードウェアの機能のみによって決まるのではなく、ソフトウェアやAI、高性能なコンピューティングによって左右されるSDVへの移行が進んでいます。同時に、エンドツーエンド（E2E）AIモデルが自動運転の新たな基盤として台頭しており、車載コンピューティングプラットフォームは高度化するAI処理に対応するため、急速な進化を遂げています。そのため、量産可能な自動運転の実現には、AIソフトウェア、システムソフトウェア、車載プロセッサの統合が不可欠です。

ティアフォーは「Autoware」の開発を主導しており、ルネサスとともに「Autoware」を中心としたオープンなエコシステムを拡大し、より安全で賢く、継続的に進化するモビリティの実現に貢献するため、ルネサスとの協業を開始しました。

２．協業の概要

**１．オープンなリファレンスプラットフォームの確立**

当社は、「Autoware」と将来のAIネイティブな自動運転技術向けの主要なリファレンスコンピューティングプラットフォームの一つとして、ルネサスの「R-Car Gen ５」を採用します。
両社は、SDVの開発と実装を加速させるため、このハードウェアとソフトウェアを統合したプラットフォームを共同で最適化し、世界中の自動車メーカーやTier １サプライヤーに展開します。

**２．「R-Car Gen ５」上での「Autoware」とリファレンスAIモデルの最適化**

当社は、ルネサスの「R-Car Gen ５」と「Autoware」を統合し、最適化を行います。さらに、このソフトウェアを基盤として、当社が開発するE2E自動運転AIモデルであるリファレンスAIモデルを

「R-Car Gen ５」上に実装します。
従来の自動運転ソフトウェアとAIネイティブな運転モデルを共通のコンピューティングプラットフォーム上で組み合わせることで、今日の量産向けの先進運転支援システムから将来のレベル４の自動運転システムまでに対応した、拡張性の高い自動運転ソリューションの提供を目指します。

**３．次世代AIコンピューティング技術の探求**
現行の車載SoCの先を見据え、当社は、トランスフォーマーベースの自動運転AIや、LiDARや4Dレーダーをはじめとする次世代センシング技術に最適化されたAIアクセラレータを開発します。

**イベントでの展示**
当社は、2026年９月９日から11日に幕張メッセで開催されるAutomotive World 2026において、ルネサスの「R-Car X5H」上で動作する「Autoware」とリファレンスAIモデルのデモを行う予定です。このデモでは、オープンな自動運転ソフトウェア、AIネイティブな運転モデル、車載グレードのコンピューティングを単一のプラットフォーム上で統合した技術を紹介します。

３．今後の業績に与える影響
本件が当期の連結業績に与える影響は軽微であると見込んでおりますが、Autowareに対応したAI半導体が半導体メーカーによって製品化されることは「Autoware」のエコシステム拡大や自動運転の社会実装の加速、さらには当社の事業機会の拡大のために重要な要素であり、中長期的な当社の企業価値向上に資するものと考えております。なお、現時点では基本合意書（MoU）その他契約締結を伴うものではございません。

以上